

平成21年度 【 学園研究費助成金< A > 】研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ フクナガ トモコ
氏名 福永 智子

研究期間 平成21年度

研究課題名 写真資料・和書のデジタルライブラリの構築の試み

一 図書館・教員研究室のアナログ資料を中心に

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	福永 智子	文化情報学部	准教授
研究分担者	三木 邦弘	現代マネジメント学部	准教授
研究分担者	飯塚 恵理人	文化情報学部	教授

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

本学図書館には、和書・写真フィルムなど学園創立時からの貴重な資料が数多く所蔵されている。しかしながら、女子大学であるという制約もあり、利用希望者が男性である場合や遠方である場合など、必ずしも来館しての利用が現実的でない場合もある。これらの図書館利用希望者への支援としては館蔵資料をデジタル化し、デジタルライブラリの形で公開することが有効である。本研究は、本学において和書・写真フィルム・レコードラベルや録音などをデジタル化・アーカイブ化し、デジタルライブラリの形で公開できるシステムの構築を目指す。私学としての本学の図書館利用支援のあり方の基礎研究として大きな意味を持つ。

2. 研究方法等 (300字以内で記述)

①京都大学図書館・国会図書館・東京大学図書館など、アナログ資料をデジタル化し、ネットでデジタルライブラリとして公開している図書館に、具体的な方法・費用の費目・問題点を聞き取り調査する。そして椋山女学園大学図書館及び各学部共同研究室・各教員所蔵資料のデジタル化と活用方法について、具体的・現実的な方法について考察する。(福永担当)②和書のデジタル写真・アナログ写真のデジタル化したものを、アーカイブとしてネットで配信するためのソフトを開発する。(三木担当)③椋山の図書館・共同研究室・個人研究室に所蔵されている和書・スライド・レコード等のアナログ資料のうち、緊急にデジタル化すべきものを選び、解題を執筆する。委託費・アルバイト費等を用いてデジタル化し、保存する。(飯塚担当)

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

◇古文書のデジタル化とネットによる公開 ①古文書等の実習でも用いることが出来る標準的なバージョンである②现阶段で他大学等でデジタル化されていない③研究資料として価値が高い、という面から図書館所蔵の「椿説弓張月」をデジタル化し、三木のホームページより公開した。

◇本学図書館におけるデジタルアーカイブ (DA) 構築方針：今回は教員サイトから公開したが、今後は図書館で DA を構築・運営する必要がある、背景として以下が明らかになった。1. 学術機関リポジトリ (IR) の動向：国立情報学研究所の支援事業によって、2010 年現在 116 大学が IR を公開しており、また IR ポータル (JAIRO) によって、横断的に日本の学術情報が検索できる。シリアルズクライシスに対抗するオープンアクセスの理念を考えると、今回のような古文書アーカイブを、IR に含めるのは本来的ではない (東大、京大、名大など)。しかしながら現状では、大学図書館における運用面での様々な制約から、大規模大学においても DA を IR に含めて構築している図書館も多い (阪大、広島大など)。

2. 国立国会図書館 (NDL) の DA 推進事業：NDL は、欧州デジタル図書館 (Europeana) をモデルとして、MLA (博物館・図書館・文書館) 連携を深め、DA を推進する計画段階にある。具体的には、国内各機関の DA を統合検索する PORTA (2007 年公開) を国の DA ポータルと位置づけ、PORTA のコンテンツ拡充を図っており、大学図書館もこの事業の対象となっている。

そこで本学図書館が DA を推進していくにあたり、以下の方針が望ましいと考えられる。1. DA は IR とは別に公開する。今後どのようなコンテンツを配信していくかは、PORTA 事業の参画機関のコンテンツ作成分担方針を参考に必要がある。また学内の博物館資料なども含めて検討していく。2. DA および IR の形態は本学の社会的発信力の向上を図り、クラウド型や共同型ではなく単独型とする。3. 写真や音楽資料、博物資料や文書をアーカイブする場合でも、メタデータ管理や標準化の問題を考慮し、運営主体は大学図書館とする。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①図書館	②利用者支援	③古文書の活用	④デジタルアーカイブ
⑤ソフト開発	⑥機関リポジトリ	⑦資料保存	⑧標準化

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

(資料のアーカイブ化に関連して)

研究ノート
 戦後名古屋の邦楽界をみる 飯塚恵理人 単著 平成 21 年 7 月 名古屋文化振興事業団「なごや文化情報」第 305 号 P.4～P.5
 論文 (投稿予定)
 日本の大学図書館における学術機関リポジトリのコンテンツ： デジタルアーカイブとの関連で 福永智子 単著
 デジタルアーカイブの構成： 椋山女学園大学の場合 福永智子 単著